

ご挨拶



一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会
副会長

せんざき むねのり

先崎 心智

(日本アイ・ビー・エム(株))
IBMコンサルティング事業本部
ヘルスケア・ライフサイエンス
サービス
理事・パートナー

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。能登半島地震で苦難を経験された皆様、及びその関係者の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。安全な日々の回復と迅速な復興を、切に願っております。

2023年は、生成AIが飛躍的に拡がり、テクノロジーの広大な可能性が社会に認知されました。同時に、国際的な不確実性や労働力の減少といった懸念がありつつも、デフレーションからの脱却への期待感が高まっています。2024年は、これらの期待に応えるために、テクノロジーを駆使した革新的な取り組みが特に求められる節目の年です。

2024年4月からは、医師の働き方改革が新たな段階に入ります。これまで医師の長時間労働に支えられてきた日本の医療においては、変わりゆく医療ニーズ、技術の進歩、医療従事者の減少に直面する中、医療の質と患者の安全を確保することが、医療提供の持続性において極めて肝要です。この点において、IT・デジタル技術の役割は一層重要になっています。

また、医療DX推進の工程表によれば、健康保険証の廃止、電子処方箋の展開、電子カルテ情報共有サービス（仮称）の構築、標準型電子カルテα版の開発着手など、2024年は医療デジタル化にとって決定的な年とされています。これらのイニシアティブは、サイバーセキュリティを確保しつつ、医療DXを実現し、保健・医療・介護の情報を有効に活用していくことにより、より良質な医療やケアを受けることを可能にし、国民一人ひとりが安心して、健康で豊かな生活を送れるようになることを目的としています。こうした目標に向けては、既存の枠組みを超え、官民が一丸となって取り組むことが不可欠です。

経済の面では、30年ぶりの高水準となる賃上げ、記録的な名目100兆円の設備投資、50兆円ものGDPギャップの解消の進展など、日本は大転換の機会を迎えています。人口減少と高齢化が進む中、IT・デジタル技術の積極的な活用は、社会経済活動を支える不可欠な要素です。また、社会の包摂性

を高めるための少子化対策、認知症ケア、教育のデジタル化といった取り組みも強化されていきます。

昨年のG7広島サミットに続き、「広島AIプロセス」は、安全で信頼性の高いAI技術の普及に向けた国際的な取り組みを加速しています。安全、安心、信頼できるAIの実現に向けて、AIライフサイクル全体の関係者それぞれが異なる責任を持つという認識の下、12項目の国際指針が整理され、気候変動、健康、教育といったグローバルな課題へのAIの応用が期待されています。

このような状況の中で、保健・医療・福祉の情報システム業界として、信頼されるITの提供とテクノロジーを駆使した革新に向けて、一層の努力を重ねる必要があります。こうして、より良い社会インフラの構築と持続可能な進歩を目指していきます。

皆様の変わらぬ支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。新たな年が、皆様にとって健やかで幸福に満ち、成功の多いものとなりますようお願いしております。共に未来を築き、革新を進めていきましょう。